

# 久保地尾根遺跡

住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書

1995. 3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が久保地尾根遺跡

## 序

本書は、個人住宅の建設に伴って原村教育委員会が今年度実施した発掘調査の報告書です。久保地尾根遺跡のある尾根は近年宅地化がすすみ、山林や畠であった土地に住宅が建設されるケースが増えてきました。こうした開発の流れの中で、いかなる形で遺跡を保護していくか、最も妥当な方法を検討しているところですが、このたびの地点については昨年度からの協議の中で発掘調査を行って記録保存をはかることとなったものです。

発掘調査の結果、縄文時代の住居址を発見し調査することができ、今までにはっきりしなかった本遺跡における集落跡の範囲を推定するのに貴重な資料を得ることができました。

最後に、今回の調査にあたりご理解とご協力をいただいた地主の岡橋龍也氏、また発掘調査から報告書作成にいたる過程で、ご指導ご協力を賜った関係各位に心から謝意を表し、序といたします。

平成7年3月

原村教育委員会  
教育長 平林 太尾

## 例　　言

1. 本書は、個人住宅の建設に伴って実施した長野県諏訪郡原村室内に所在する久保地尾根遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 本調査は、国庫及び県費から発掘調査費補助金の交付を受けて、原村教育委員会が平成6年11月10日から12月1日まで実施した。整理作業は平成7年1月4日から平成7年3月22日まで行った。
3. 現場の発掘調査における遺構等の実測・記録は五味一郎と井上智恵子、写真撮影は五味が行った。また遺物整理・図面の整理は武藤雄六・五味・井上と石器の実測については㈲アルカ代表取締役角張淳一に委託して行った。原稿の執筆は武藤・五味が話し合いのもとに行った。
4. 出土品・諸記録は原村教育委員会で保管している。  
なお、本調査関係の資料には、57の原村遺跡番号を表記した。
5. 発掘調査から報告書作成にいたる過程で、長野県教育委員会文化課指導主事小平和夫・春日雅博の各氏、太田敬吾氏はじめ多くの方々からご指導ご教示を賜わった。記して厚く感謝申し上げる次第である。

## 目　　次

### 序　　例　　言　　目　　次

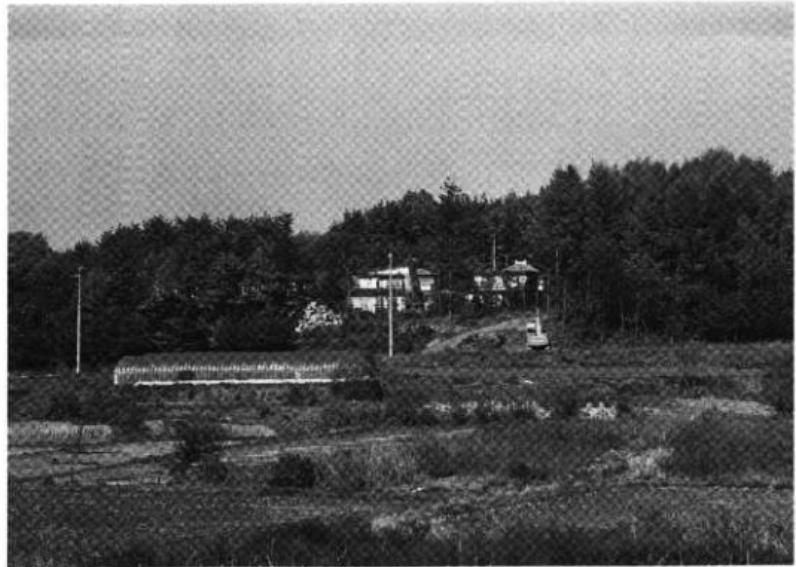
I 調査に至る経過.....	1
II 発掘調査の経過.....	3
III 遺跡の位置と環境.....	3
IV グリッドの設定と調査の方法.....	4
V 遺跡の層序.....	4
VI 遺構と遺物.....	6
VII まとめ.....	8
参考文献　　発掘調査団名簿	

## I 調査に至る経過

久保地尾根遺跡は今日までに完形土器が何点か発見され、縄文時代の良好な遺跡と考えられているものの正式な発掘調査は今まで行われておらず、遺物の散布の範囲や集落跡の位置などがはっきりしない遺跡であった。

今回の調査は平成5年に住宅建設が計画されたもので、当初は事業者が造成して売却する計画であったが、その後事業者の岡橋龍也氏本人の居住する住宅建設に変更された。遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいが、個人住宅の建設という生活に欠かせない原因であるため、長野県教育委員会の指導のもと原村教育委員会が協議を進め、国庫及び県費から発掘調査費補助金の交付を受けるなかで発掘調査に至ったものである。

調査対象箇所は用地内の住宅敷地部分であり、平成6年11月10日から12月1日まで実施した。



第1図 久保地尾根遺跡調査地区と調査風景（南から）

表1 久保地尾根遺跡と付近の遺跡一覧

番号	遺跡名	旧石器	縄文					弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中	後							
27	闘 湿沢				○					○				昭和62年度発掘調査
28	宮 平									○	○			
29	向 尾 根				○	○				○	○			昭和50・54年度発掘調査
30	南 尾 根				○					○				
31	中 尾 根									○				
32	大 横 道 上				○	○				○				昭和42・51年度発掘調査
33	ワ ナ バ				○									
35	臥 竜			○	○	○								昭和33・35・36・45・57年度発掘調査
51	蛇 ケ 原			○	○									昭和63・平成元年度発掘調査
52	水 掛 平			○						○				
53	雁 頭 沢				○					○				昭和54・57・63、平成4・5年度発掘調査
54	宮 ノ 下		○		○					○	○	○		昭和57・58年度発掘調査
55	中 尾 根				○	○				○				
56	家 前 尾 根				○					○				昭和51年一部破壊
57	久 保 地 尾 根				○	○								昭和51年一部破壊、平成6年度発掘調査
61	番 鶴 場				○									昭和50年消滅
87	下 原 山 南				○	○				○				昭和63・平成元年度発掘調査
88	下 原 山 北				○	○	○			○				昭和63・平成元年度発掘調査



第2図 久保地尾根遺跡の位置と付近の遺跡 (1:20,000)

## II 発掘調査の経過

- 平成6年11月10日 発掘準備を始める。
- 11月11日 グリッド設定を行う。
- 11月14日 テントの設営と機材の搬入を行う。重機により3m間隔で幅約1mのトレンチを掘り下げ、遺構・遺物の検出を始める。縄文後期の土器片が出土する。
- 11月15日 重機によるトレンチ掘り下げ。手堀りによるトレンチの調査を続ける。RU-40・RV-40付近にて、黒褐色土の落ち込みを認めたため、付近を拡張して調査し、曾利式期の住居址を検出す。第1号住居址と命名する。
- 11月16日 1号住居址の検出作業を行い、検出写真を撮影する。重機によるトレンチ掘りを続け、トレンチの間に更にトレンチを設定し掘り下げを始める。
- 11月17日 1号住居址の調査を始める。礫と遺物の出土状態の写真を撮影し、実測を行う。重機はトレンチ掘り下げを続け、本日で終了する。
- 11月18日 1号住居址柱穴・炉等の調査を行う。
- 11月21日 1号住居址柱穴・炉・周溝の調査を行う。基本層序の観察と写真撮影を行う。
- 11月22日 1号住居址の実測を行う。手堀りでトレンチの調査を行う。
- 11月24日 1号住居址の床面精査を始める。トレンチの調査を続ける。
- 11月25日 1号住居址の床面の精査。柱穴が検出される。トレンチの調査を続ける。
- 11月28日 トレンチの調査を行う。
- 11月29日 1号住居址追加実測を行う。トレンチの精査。
- 11月30日 1号住居址最終精査を行う。トレンチの最終精査を行う。かたつけを始める。
- 12月1日 テントを撤収し、機材のかたつけ洗浄を行い、現場での調査を終了する。遺物の水洗いを行う。

## III 遺跡の位置と環境

久保地尾根遺跡（原村遺跡番号57）は、長野県諏訪郡原村室内にあり、室内区の南方にあたる。村中心部に近いこともあって近年宅地化が進んでいる。遺跡は標高980～1000mにあり、本調査地点は996.5m前後を測る。住宅建設計画までは山林であった。遺跡は北の阿久川と南の菖蒲沢川の支流によって解析された東西に細長い尾根上に位置するが、南北ともかなり急な斜面となり比高差は9m前後である。尾根幅は調査地点付近で100mを計る。遺跡の西には同じ尾根続きに家前尾

根遺跡がある。

調査地点は県道払沢富士見線から160mほど下った、南の村道と尾根上を西に流れる菖蒲沢堰に挟まれた地点にあたる。地番は原村11,255-1・2である。

## IV グリッドの設定と調査の方法

調査にあたって調査区北東部に任意に基準杭を置き、東西南北方向（磁北による）に十文字のラインを設定した。東西方向はこの基準線からそれぞれ50mの大区分を設け、西をR区、東をS区とした。さらにその大区分の中を2mの小区分に分け、西からアルファベットのAからY(50区分)までを振った。南北方向は大区分を設けず、東西の基準線を境に2mの小区分に区切り、南に40・39・38と小さく、北に41・42・43と大きくなるよう名付けた。これによって遺跡全体に2m×2mのグリッドが設定されたことになり、各グリッドは①東西の大区分、②東西の小区分、③南北の小区分の順に表記することで特定した（例：RS-40）。また、東西のグリッド列についてには「40列」のように、南北の列について小区分は「RS列」というように称している。なお東西南向のラインは、ほぼ八ヶ岳裾野の傾斜方向である。

調査は、グリッドの東西方向の列に合わせて1m間隔で幅1mのトレンチを設定し、重機で表土を除去した後、手堀りで調査した。1号住居址の検出された箇所についても重機で表土を除去し、手堀りで遺構検出を行ったのち調査した。

基本的にはソフトローム層上面までの調査とし、敷地面積570m<sup>2</sup>のうち調査面積は211m<sup>2</sup>である。

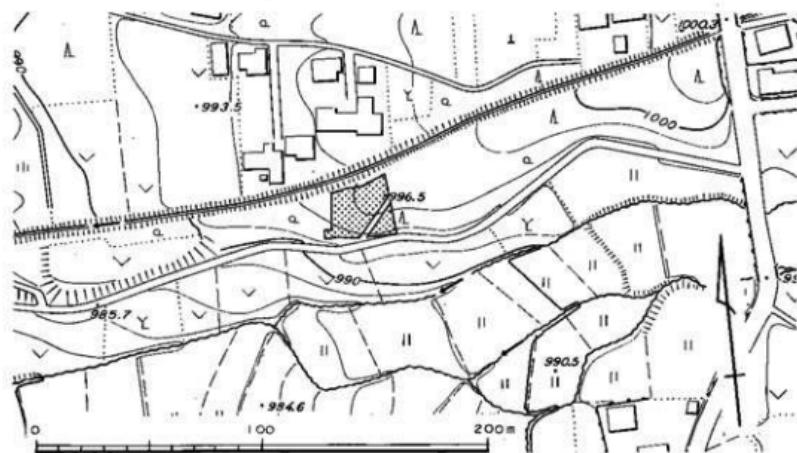
## V 遺跡の層序

発掘区北側の尾根上部が土層も安定しているため、RP-40グリッド内のトレンチ断面を基本層序と考え、観察結果を示しておきたい。

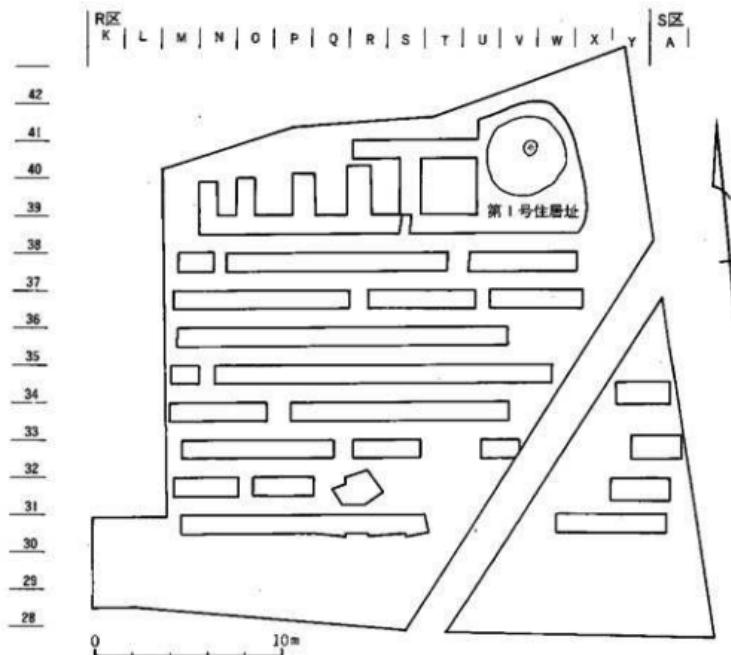
第I層 黒色 土層 山林の表土層。厚さ25~39cm。上層8cmは腐植層。

第II層 黒褐色土層 I層より明るくやや縮まる。I・III層より固い。厚さ20~30cm。繩文時代の遺物はこの層から出土した。

第III層 黄褐色土層 いわゆるソフトローム層。厚さ7~24cm。



第3図 久保地尾根遺跡発掘調査区域図・地形図 (1:2,500)



第4図 久保地尾根遺跡のトレンチと住居址位置図 (1:300)

## VI 遺構と遺物

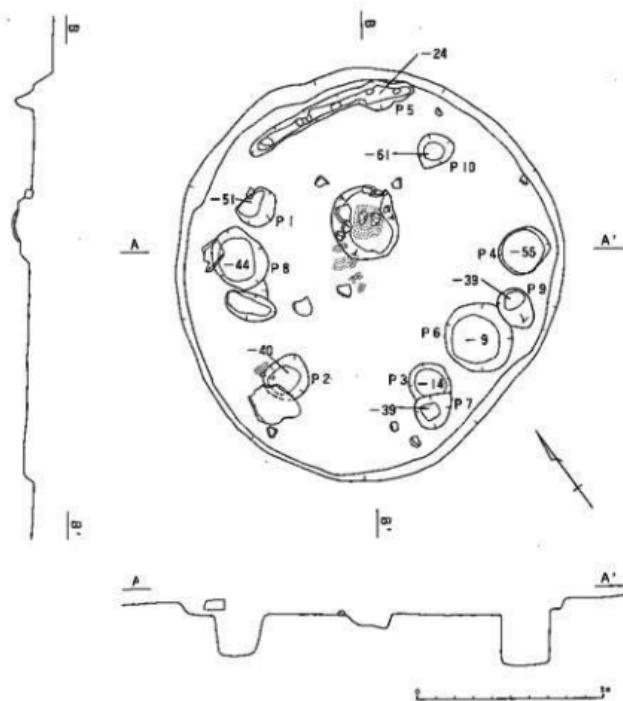
### 1 繩文時代の遺構と遺物

調査の結果、縄文時代中期の住居址1軒を検出し詳細な調査を加えた。また、トレーンチでは遺構がみつからずに縄文土器片と黒曜石の剥片などを発見したにすぎなかった。

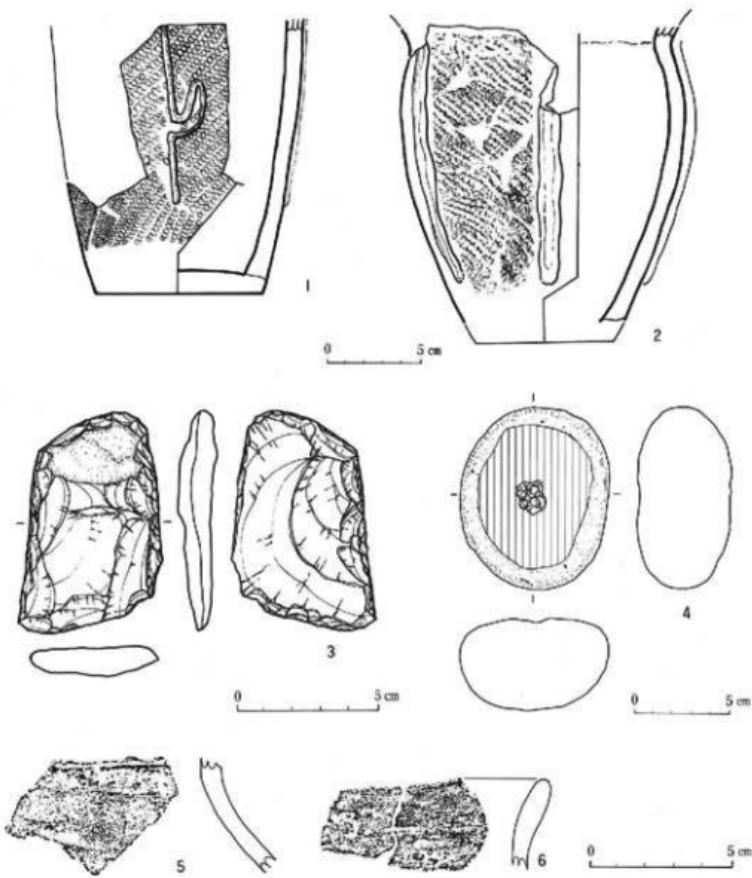
#### (1) 第1号住居址

##### 遺構

この住居址は、調査区のうち菖蒲沢堰寄りの40列を重機でトレーンチ堀りしたところ、RU・RV



第5図 第1号住居址実測図 (1:60)



第6図 第1号住居址土器・石器実測図 (1-2-4は1:3,3は1:2)、遺構外出土土器拓影 (5-6は1:2)

グリッドで黒褐色の落ち込みが認められたので、周囲の表土を除去した後、手堀りで遺構の有無を調べ、第1号住居址を発見調査した。

竪穴の平面形は440×415cmと卵形に近い円形を示し、壁高は北東壁21cm、南東～南西壁10cmとやや浅い。床面はローム土で水平に近く、炉址から北は硬いが南側は比較的軟弱であった。柱穴と認められる穴は7ヶ所で、北東壁下に長さ185cm深さ24cmの周溝が掘られ、20～30cmの間隔で小穴が穿たれていた。炉址は中央やや北東寄りに設置され、規模は78×70cmの寸詰まりの長方形で、

中央の焼土は3cm厚を示し炉の外にまで認められた。炉石の多くは住居址の床面各所に土器などと共に散在していた。出入口は西南で、P2の傍らに平板石が据えられ怡も埋甕でもあるかのようであったが、夢物語に終わってしまった。

この第1号住居址は、久保地尾根遺跡の最末端に位置していたこともあるってか、床面上にあるべき遺物は仄かな期待に反し極めて少なかった。

#### 遺 物

土 器 わざかに図上復元できる2個体と底部および小破片65点にすぎなかつた。

第6図1は胴部に縄文を施し図のような浮状の粘土紐による懸垂文と波状の横帯文で頸部を飾り無文の口縁をもつキャリッパー型の深鉢で、胎土に多量の長石粒を含むザラツとした感じの土器である。

図2は懸垂文の形状が粗く浮状の反しのない点が異なるだけで他は図1と同様の器形を示す深鉢。また、胎土焼成も図1と同じ曾利II式の古手の土器である。

石 器 石器は打製石斧1・凹石1・黒曜石の石核1・剝片11点などであった。

図3は硬砂岩製の打製石斧で刃部は片刃状に調整し左利き用である。

図4は輝石安山岩製の凹石で、凹みは表裏に認められるが、片面はやや平滑に磨られている。

#### (2) 遺構外の出土遺物

トレンチ調査によって発見された遺物は、縄文土器13点のほか黒曜石の剝片1点があった。土器は住居址と同じ中期のもの他、後期と思われるもの2点が混在していた(図5・6)。

## VII ま と め

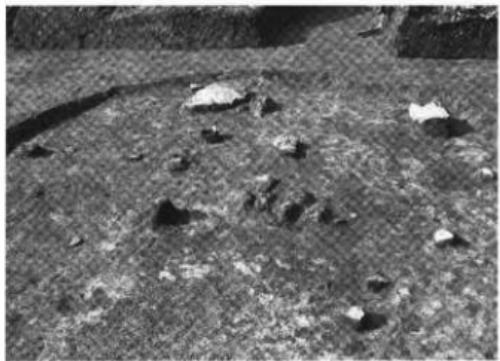
本遺跡はかねてより完形土器が発見されたり、昭和51年には道路改良工事のため遺跡の南側が破壊され、住居址も確認されていたものの、正式な発掘調査が行われたことはなく、また山林として残されている部分も多いため遺物の散布範囲が明確ではなかった。遺跡範囲も約52,500m<sup>2</sup>という広大なものである。

今回の調査は、尾根上部から南斜面にかけての570m<sup>2</sup>が対象であったが、調査区北東部の一番高い地点から縄文時代中期曾利式期の住居址を1軒検出することができたことは特筆される。これは集落のはずれにあたる1軒と考えることもでき、今回の発掘区の北側に広がる平坦な尾根上に該期の集落跡が埋没していることも十分考えられるところである。

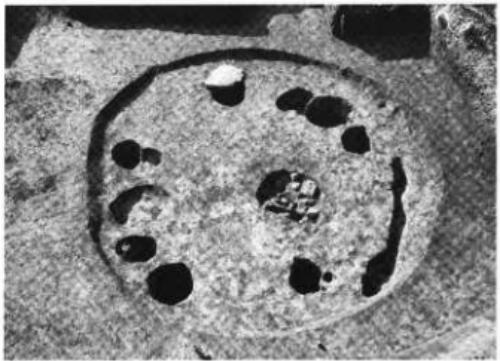
最後に、関係者各位ならびに発掘調査にたずさわった方々に厚くお礼申し上げる次第である。



第7図 第1号住居址遺物・礫出土状態(東から)



第8図 第1号住居址遺物・礫出土状態(部分)



第9図 第1号住居址全景(東から)

参考文獻

1985.07 原村役場「原村誌上巻」

発掘調査団名簿

団長 武藤 雄六

調査担当者 五味 一郎（原村教育委員会）

調査員 井上智恵子

調査参加者 錦倉きふみ 宮坂とし子 小林 正一 清水 正進（順不同）

事務局 平林 太尾（教育長） 平林今朝二（教育次長）

大口美代子（庶務係長） 宮坂 道彦（主任） 伊藤 佳江

平出 一治 平林とし美 五味 一郎（文化財係長）

## 報告書抄録

ふりがな	くぼちおね						
書名	久保地尾根遺跡						
副書名	住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	原村の埋蔵文化財						
シリーズ番号	35						
編著者名	武藤 雄六・五味 一郎						
編集機関	原村教育委員会						
所在地	〒391-01 長野県諏訪郡原村6549番地1 TEL 0266-79-2111						
発行年月日	西暦 1995年3月22日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯 度分秒	東經 度分秒	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
久保地尾根	長野県諏訪郡 原村	3637	57 57分 20秒	138度 13分 1秒	19941110 19941201	211	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
久保地尾根 遺跡	集落跡	縄文時代 中期	縄文時代中期 住居址1軒		縄文 中期土器(深鉢など) 後期土器片 石器(打製石斧・ 凹石など)		

原村の埋蔵文化財35

久保地尾根遺跡

住宅建設に伴う緊急  
発掘調査報告書

発行日 平成7年3月22日

発行 原村教育委員会  
長野県諏訪郡原村

印 刷 日本ハイコム株式会社  
塩尻市北小野 4724  
TEL 0263-56-2111

